



看護業務の効率化先進事例アワード 2023

「使える」ICTの運用と
「新たな」ICTの導入で
訪問看護ステーションの業務を
もっと効率化する！

公益社団法人広島県看護協会
訪問看護ステーション

奨励賞

公益社団法人 広島県看護協会 訪問看護ステーション

訪問看護事業局 基本理念

住み慣れた地域で
最期まで安心して過ごすことが
できるよう支援します



所在地 訪問看護ステーション
「ひろしま」「こい」「ひびき」：広島県広島市
「そよかぜ」「ひかり」：広島県呉市

職員数 112名 ※2023年12月1日現在
うち看護職員数 78名

HP <https://www.nurse-hiroshima.or.jp>

1 職員の業務負担の増加

- 訪問看護へのニーズは高く訪問看護の依頼が増加
- 通常訪問に加え新型コロナウイルス感染症への対応
- 職員の負担を軽減するためには、業務の効率化が必要

2 ICTが業務の効率化につなげていない

- 全看護職員にタブレットを貸与しクラウド型電子カルテを導入したが、職員のICT活用度が低く、業務の効率化につなげていなかった

課題

職員のICT活用度の低さと事業所格差

ICT（タブレット及びクラウド型電子カルテ）導入した3か月後に
職員アンケートを実施（2020年2月）

対象：5事業所の看護職員77名

○ 「ICT導入により業務効率化ができた」職員の割合

全体で**66%**
n=77

職員には
ICT活用によって業務効率化できた
実感がない

5事業所の事業所別の平均値

- ・ 最高値の事業所：94%
- ・ 最低値の事業所：35%

※事業所間で**59ポイントの差**

事業所間でICT活用による
業務効率化に格差がある

○職員からの意見



- ・ タブレットの操作、入力に時間がかかる
- ・ 電子カルテに入力する項目が不足
- ・ タブレットから印刷できない

目的

職員がICTを有効に活用することで業務が効率化され、
余裕をもって仕事ができる

目標

○職員のICT活用の推進とICT活用に関する事務所間の格差の是正

○職員主体のICT活用推進体制の構築

方法

○職員アンケートによる課題の可視化と、課題への継続的な取り組み

○委員会活動による課題解決への取り組み

取り組み内容

1 委員会活動による課題解決への取り組み(2020年2月)

既存の「記録委員会」を活用し、職員が主体的に取り組むことができる体制とした

各事業所の記録委員が主体となり、以下の取り組みを自事業所で実施

(課題1)

タブレットの操作・入力に
時間がかかる

音声入力の活用推進

◎繰り返し音声入力続けることで誤変換への対応も慣れる
ことを記録委員が中心となり周知

(課題2)

電子カルテに入力する
項目が不足

電子カルテをカスタマイズ
(入力項目を追加)

◎記録委員が中心となり職員の意見を集約し
必要項目を検討した

(課題3)

電子カルテで印刷するものと印刷
しないものの区分けがあいまい

印刷するものとししないものを
区分けしたマニュアルの作成

(課題4)

タブレットから印刷できない

全事業所に無線LANを整備
タブレット無線印刷アプリ
によるプリンター印刷

2

新たなICTの導入

- ICT活用の課題解決体制ができたため、新たなICTを導入

2020年4月導入

クラウドストレージ



- ・ マニュアルや共通様式をクラウドに保管
- ・ リアルタイムな情報をクラウドで共有
- ・ メールや郵送での送受の手間を削減

2020年4月導入

Web会議システム



- ・ 所長会議・委員会をWebで開催
- ・ 直行直帰の職員のアルコールチェックに活用し確認業務を効率化

3 職員のICT活用状況と課題の可視化（2021年11月）

第2回職員アンケート（ICT導入1年後）で可視化されたこと

○ICT活用度が「向上」

「ICTにより業務効率化できた」職員の割合 66% → 75%
n=78

○事業所間の格差が「縮小」

「ICTにより業務効率化できた」職員の割合

- ・ 最高値の事業所：94%
 - ・ 最低値の事業所：46%
- 事業所間で48ポイントの差
(前回：59ポイント)

○職員からの意見（課題）



- ・ 電子カルテに入力する記録内容が多く時間がかかる
- ・ 音声入力が難しい

4 委員会活動による課題解決への継続した取り組み (2021年11月～)

第2回職員アンケートからの課題「看護記録方法」に対して取り組んだ効率的な記録ができる体制作りを記録委員会主体で進めた

(課題1)
音声入力が難しい

○音声入力の効果的な利用方法と
メリットを周知

(課題2)
電子カルテに入力する
内容が多く記録に時間か
かかる

○「看護記録記載基準」の作成
(クラウド型電子カルテ版)
・訪問看護記録書の様式ごとの
記載方法の明示・ひな型の作成
・クラウド保存、紙印刷の要否の
区分けを明確化

○電子カルテの「便利機能」の周知

○「記録監査体制」の構築
「記録監査マニュアル」を作成
各事業所で記録監査を実施

5 目標達成のための継続した取り組み (2022年4月～)

- 第2回職員アンケートでICT活用度の向上が可視化されたため、更に新たなICTを導入

2022年4月導入
オンライン教育ツール

職員はタブレットからいつでもアクセスでき
隙間時間に学ぶことができる
(看護技術や講義動画の視聴)

○職員アンケート・委員会活動の継続 (職員アンケート)

・課題に焦点化したアンケート

第3回職員アンケート(2023年7月)では、継続した課題となっていた「音声入力」に**焦点を当て調査**

事業所間での音声入力の活用度格差が見られたため、音声入力の事業所格差解消に**重点的**に取り組んでいる

(委員会活動)

・委員会活動の広がり

記録委員会に加え教育委員会もICT活用のための取り組みを行い各委員会の活動に「ICTの活用」を位置づけた

1 職員のICT活用度の向上

○ 「ICT導入により業務効率化ができた」 職員の割合



取り組み前 (2019年度)

取り組み後 (2023年度)

第1回、第3回職員アンケートより

2 事業所間 (5事業所) のICT活用度の格差改善

○ 「ICT導入により業務効率化ができた」 事業所格差



取り組み前 (2019年度)

- ・ 最高値の事業所 : 94%
- ・ 最低値の事業所 : 35%



取り組み後 (2023年度)

- ・ 最高値の事業所 : 100%
- ・ 最低値の事業所 : 86%

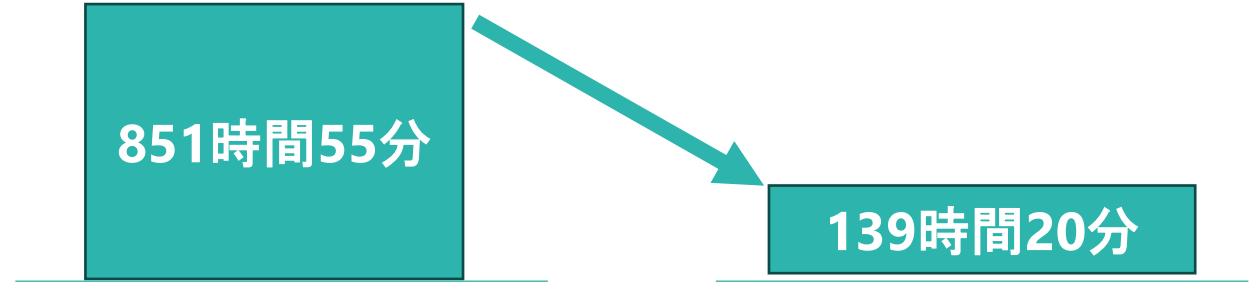
3 時間外業務時間の削減

○法人内5か所の訪問看護事業所の時間外勤務時間（年間合計）

※法人内5か所の訪問看護事業所の記録・報告等に係る時間外勤務時間
（緊急訪問の時間は除く）

対象者：看護職員78人

対象者：看護職員77人



取り組み前（2019年度）

取り組み後（2022年度）

1. 職員の業務負担の軽減

◎看護職員を対象としたアンケート

「時間内に仕事が終わらず超過勤務が続いており疲れ果てている」

(広島県版自己点検ツール「チャレンジ」アンケート ※)

※広島県看護協会：看護職が働き続けられる職場環境づくりのためのアンケート

常勤職員平均値 (低い値のほうが「良い」)

3.18ポイント (2020年度)



2.96ポイント (2022年度) に改善

(2023年度職員アンケートより)



- ・音声入力により記録時間が短縮できた
- ・電子カルテの選択項目が増え、余分な記録の手間がなくなった
- ・訪問中にタブレットで記録することで、事務所内での業務が減った

2. 訪問看護利用者の満足度の向上

- 「看護師は本人・家族の希望や考えなど、話をよく聞いてくれる」
→利用者・家族が「とてもそう思う」「そう思う」

(2020年11月)

74%

n=549



(2022年11月)

78%(4ポイント上昇)

n=514

- 「看護師は他の関係者と適切に連絡をとってくれる」
→利用者・家族が「とてもそう思う」「そう思う」

(2020年11月)

70%

n=549



(2022年11月)

74%(4ポイント上昇)

n=514

1. ICT導入後は目的の達成度を継続的に評価する

- ICT導入後はその活用度と有効性を継続的に評価し、導入目的の達成度を評価する
- 課題に対してPDCAサイクルで取り組みを続け、あるべき姿に近づけていく

2. 職員主体の課題解決への取り組み体制

- 委員会の活用により、職員が主体的に課題解決に取り組むことができる
- 各委員が目的達成にむけて事業所ごとの課題に応じた取り組みを行うことが、事業所間格差の改善につながる
- 職員アンケートで職員の意見を取り入れることで、実情にあった実効性の高い取り組みにつなげることができる

1. 委員会を活用した業務効率化の取り組み体制の発展

「記録委員会」「教育委員会」に加え、「医療安全・感染管理委員会」等他の委員会にも業務効率化、ICTの活用を位置づけ、各委員会での取り組みに加え、委員会の連携により更に取り組みを発展させたい

2. 複数のICTを体系的に組合わせた訪問看護ステーションの業務効率化システム作り

クラウドシステムを中心とし、それぞれの職員が事務所外でも遠隔で効率的に業務が完結できる体制の構築

- ◎「看護記録」 →クラウド型電子カルテ
- ◎「情報共有」 →クラウドストレージ・クラウド型ビジネスチャット
- ◎「自己学習」 →オンライン教育システム

※運用ルールを体系化することで更なる業務効率化を図りたい